

重点1 毎日の授業の充実

1 学力の向上・授業改善

ねらい

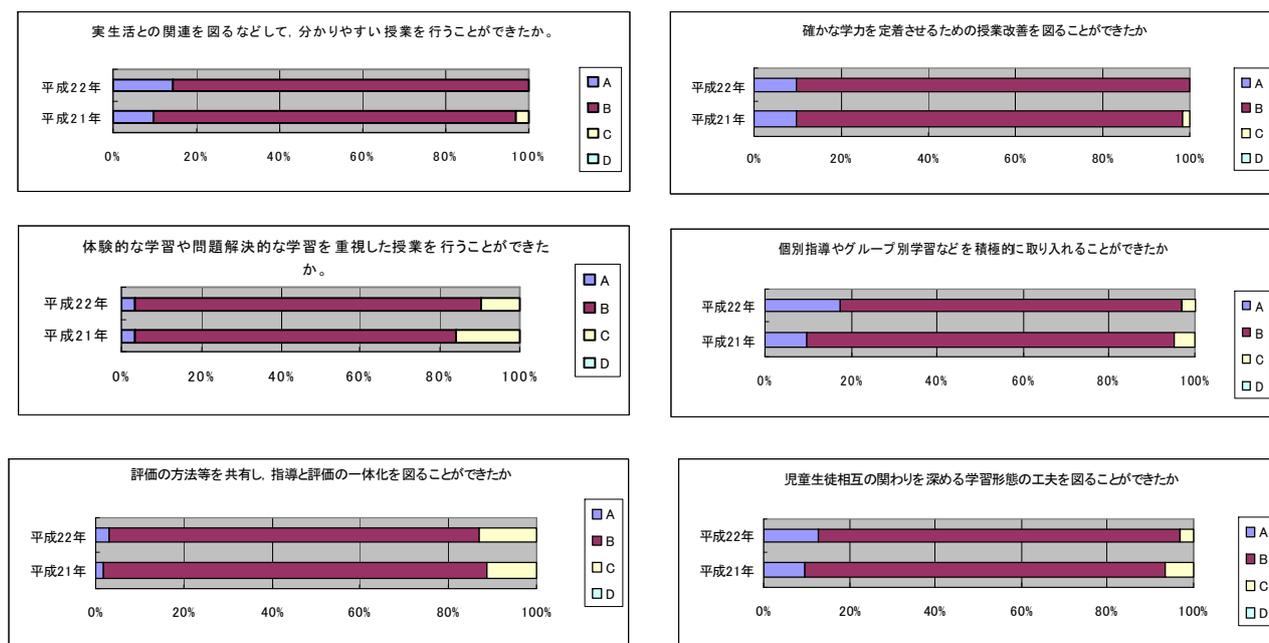
小中学校では、9年間の義務教育において、学校で学ぶことの楽しさを味わわせるとともに、一人一人の児童生徒に「生きる力」「共に生きる力」を育むように努めています。

特に、確かな学力の定着を図るため、「学び合い」を基盤とした問題解決的・体験的な活動を重視した授業、分かることの大切さやできることの喜びを実感できる授業をめざしています。

現状と課題

○ 小中学校における授業改善の取組状況

<学校教育活動の評価から>



【凡例】 ■ A 十分 ■ B おおむね十分 ■ C やや不十分 ■ D 不十分

取組の意義や重要性が浸透し、「十分」と回答する率が上がっています。一方、「問題解決的な学習・体験的な学習」や「学び合う学習」、「指導と評価の一体化」に関する項目で「やや不十分」と回答する率が高くなっています。今後も授業改善を進めていく必要があります。

今後の方向性

○ 『学びの一体化』による中学校区が一体となった授業改善

本市では、平成18年度から、市内全中学校区を単位とし、幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携を図る「学びの一体化」を進めています。「学び合い」「問題解決的な学習」をキーワードに確かな学力（基礎的・基本的な知識・技能と自ら学び自ら考える力を兼ね備えた統合的な学力）の育成を図っています。特に今年度は、先行実施校区を中心に、授業実践事例を基に考え合うことを重点とした授業改善の取組を始めました。今後さらに子どもの実態をふまえながら、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、「学び合い」を基盤とした「問題解決的な学習」の実践をめざした授業改善に取り組んでいきます。

## 主な取組状況

### ○ 到達度検査(CRT)の分析に基づく授業改善

四日市市教育委員会では、平成19年度から開始された全国学力・学習状況調査の結果分析を各年度教育委員会ホームページに掲載し、授業改善の啓発を図ってきました。また、到達度検査(CRT)は平成14年度から全市的な取組として実施し、四日市市の子どもたちの学力の傾向や課題を明らかにするとともに、課題の克服方法等に対する提言を行ってきました。

各学校においても、自校の調査結果から子どもの学力の強みや弱みを明らかにして、授業改善を図るとともに、学校だよりなどを通じて情報発信し、学校教育への理解・協力や家庭との連携を呼びかけています。

### ○ 全国学力・学習状況調査抽出校における特色ある教育課程等実践例

#### <家庭学習習慣の定着にむけて>

- ・ 家庭と学校が協働して「家庭学習の手引」を発行し、家庭学習の意義を学校だより等で適宜伝えています。
- ・ 「学習の進め方ガイド」を作成し、家庭学習や日常の学習への取り組み方などを指導しています。また、週末に宿題を出して、週始めに集めて細かくチェックする「週末学習」を行うなど、家庭学習の定着を図っています。

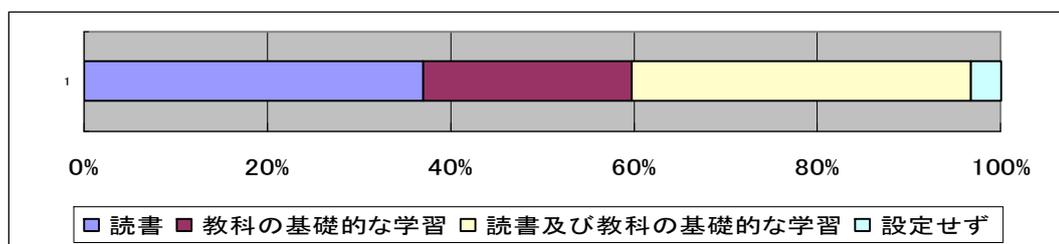
#### <書く力をはぐくむ取組>

- ・ 事実をわかりやすく説明させたり意識して書かせたりするという取組とともに、行事ごとに作文等を書かせたり、学年のまとめとしての主張や「私の答辞」を書かせたりしており、学年が上がるごとに書く力が育まれています。また、学びの一体化「書き」部会でも「書く力の育成」が課題として取り上げられています。漢字等の書きと平行して、文章を書く力についても小学校と連携しながら取り組む予定です。

### ○ 毎日の繰り返し学習の位置づけ

学習指導要領の改訂によって、「朝の読書」「朝の学習」等を教科の授業に位置づけることが可能となりました。これにより、毎朝1限目が始まる前に10分程度の学習を取り入れる学校が増えました。また、特定の曜日の放課後等に、補足的な学習の時間を設定し計画的に実施している学校もあります。

#### <小中学校における始業前の学習時間の設定状況>



\*この調査において始業前の学習とは、教科等の授業の時間の外で、教員の指導の下、特定の時間を設定して計画的に学習を行うことをいう。